

# 第6回地域包括ケア応援セミナーアンケート集計結果

日程:平成29年 7月13(木) 13時30分～16時30分

会場:さいたま新都心合同庁舎1号館 講堂

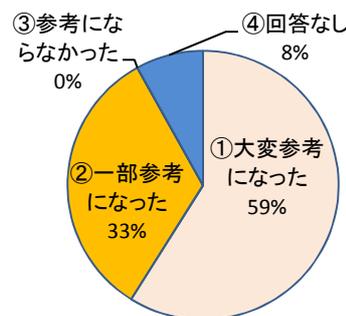
## 1. アンケートの回答数内訳

都県	市区町村	医師会	歯科医師会	薬剤師会	看護協会	医療機関	薬局	事業者	地域包括支援センター	大学	その他	合計
6	125	0	0	0	1	3	2	6	30	17	46	236

## 2. 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。

①大変参考になった	②一部参考になった	③参考にならなかった	④回答なし	合計
139	78	0	19	236

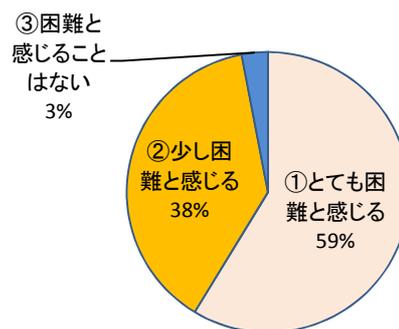
※自由記述(2)



## 3. 総合事業に関わっている方にお聞きます。

(1) 総合事業を実施するに当たって、困難と感じる事がありますか。

①とても困難と感じる	②少し困難と感じる	③困難と感じることはない	合計
98	64	5	167



→①②と答えた方は、困難と感じることは何ですか。(複数回答可)

- ア 資源の把握
- ウ 協議体の設置
- オ A型サービスの拡大
- キ C型サービスの拡大
- ケ 予算の上限額の管理
- サ その他
- イ 生活支援コーディネーターの任命
- エ 地域での考え方の共有(総合事業の必要性の理解)
- カ B型サービスの拡大
- ク D型サービスの拡大
- コ 介護予防ケアマネジメントの強化

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
45	37	61	97	30	79	23	27	17	37	14

※自由記述(3-1))

(2) 総合事業は新しいというだけでなく、住民やNPOの力を引き出す難しさがあると思いますが、拡充のためにどのような研修に参加したいですか。(複数回答可)

- ①制度説明
- ②事例説明
- ③有識者講演
- ④小グループのディスカッション
- ⑤その他

①	②	③	④	⑤
36	96	31	41	12

(3) 協議体の役割をどう考えますか。

- ①生活支援コーディネーター以上に重要
- ②生活支援コーディネーターと同様に重要
- ③生活支援コーディネーターの次に重要
- ④余り重要でない
- ⑤重要性が理解できない

①	②	③	④	⑤
25	108	6	2	9

※自由記述(3-3))

#### 4. 総合事業に関わっていない方にお聞きします。

(1) 今後、総合事業に関わりたいとお考えですか。

- ① 総合事業の実施主体として関わりたい
- ② 住民をバックアップする黒子として関わりたい
- ③ 協議体の一員として関わりたい
- ④ 決めかねている
- ⑤ 関わりたくない



(2) 仮に関わるとした場合、何が必要ですか。

- ① 自治体の理解
- ② 適切な価格設定
- ③ その他



#### 5. 総合事業を拡大するために、今後どのような対策が必要だと考えますか。(複数回答可)

- ① 定期的に行われる事例研究の場
- ② 生活支援コーディネーターの組織化
- ③ 事例及びキーパーソンのデータベース化
- ④ 大学教員、有識者による協力支援
- ⑤ 協議体候補団体に対する意識啓発
- ⑥ その他



#### 6. ご意見・ご要望

※自由記述(6)

## 2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。

→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。

### 【3市の取組・事例発表】

1	人口規模、地域性、どこに委託しているかで取組み方の特徴があり大変参考になりました。行政側も地域性、住民性、社会資源等を考慮し、将来ビジョンを考えながら、しかけをしていく事が大切だと改めて気づかせていただきました。
2	都市型、地市型それぞれから参考になる事例が見ることができてよかった。
3	それぞれの地域によって取扱い方が違い、進めていく中での知識を得る事ができました。
4	パターンを知る事ができました。
5	やり方がその市町村で異なっており、自分の地域の情報が必要なのが分かった。
6	各市の取組状況に明確な差異があり、様々なアイデアを得られた。
7	各事例の展開とそこでのポイントを学ぶ事ができたため。
8	各自治体の事例は参考になった。体制整備を進めていく上での具体的な課題が現在進めている途上のうちの自治体の状況と重なり大変参考になった。
9	各自治体の第2層協議体の考え方が分かった。
10	各自治体の特色を活かした取組。
11	各地域で実際に取組まれている内容を聴かせていただくことができ、ポイントなども知る事ができ、大変参考になりました。ありがとうございました。職場に持ち帰りしたいと思います。
12	各地域の取組を聞き、自分たちの市の進め方が間違っていないということを実感した。方法論はたくさんあるが、基本的には地域に出向き、地域住民の関心ごとに対してアプローチし、主体性を高めるということ。
13	基調講演・・・生活支援コーディネーターを設置する背景、意味合いに学問的に納得できたため。柏市の取組・・・体制整備専攻型として、当市の方向性と同じであったため。
14	基調講演が聞き取りにくかった。 ベースの行政が柏市では最初に取り組んでいたことが分かった。自分の市も同じくらい行政がやる気にならないとだと思ふ。
15	関係者間の密な打合せ成功につながっていくのだと思いました。柏市のフレイルケアを受けた人の2割がサポーターになっているというのに驚きました。 こういった取組を参考にしていきたいです。
16	研究の成果が表れる好例として、実際に偏った柏市のチームの結果を見て、第2層コーディネーターが活躍しなくてはいけないと感じた。
17	柏プロジェクトの内容、各地域の支援コーディネーターの活動や課題。
18	柏市、コーディネーター、Q&Aの本、高崎市、ビデオ作成など。
19	柏市のしくみづくり。
20	柏市の事例。
21	柏市の事例発表。
22	柏市は参考になりました。それ以外は、多くの生活支援コーディネーターが抱える課題や悩み、つまづいているところに対してヒントになるものがなかった。地域に力のある人が次に出てきて、会議も皆出席意見の共有もでき・・・そんなうまくいくもののでしょうか？

2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。 →「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。	
23	柏市社協の生活支援コーディネーターの活動が都市型の例として参考になりました。まずは体制づくりをかためていこうと思います。（生活支援コーディネーターの設置がこれからのため）
24	包括の2層生活支援コーディネーター活動事例。
25	理論、計画、目標を基礎にした実践について、それぞれの地域の特性をもって行っていることが学べた。
26	講演は内容が多く理解するのに必死でしたが、もう一度読みなおしてみます。3事例はそれぞれ異なりますが、参考になりました。
27	3つの自治体のリレートークは分かり易く、参考にできる内容も多かったです。
28	3市とも手法は同じであるが、プロセスが違い、自分の市でも、地域特性に合わせたプロセスを考えたい。
29	3市の事例がどれも参考になりました。下記のことが特に参考になりました。 高崎市・・・大づかみから、協議体の人選、発足までの流れ。 柏市・・・やりながら出た問題をQ&Aにして、マニュアルを作ったこと。 多賀城市・・・お宝探し、一緒に参加することの重要性。
30	3人の方の発表、自分が進めていくうえで、方向性がみえたのと、同じような活動をしていて、力になった。（地域に向き、まげてもらう）多賀城の方。
31	柏市のフレイルチェックを取り入れたいと感じた。多賀城市の方の話が同じ包括として身近に感じた。これからお宝探しをしたいと考えていたので参考になりました。
32	柏プロジェクトの具体的例・多賀城市支援コーディネーターの見解、姿勢。
33	高崎市生活支援体制整備事業。
34	高崎の人材の発掘で、行政等の人材だとかたよりがあるというのは本当だと思います。広く声をかける。呼びかけて、人材資源をさがすこと。
35	高崎市：協議体立ち上げのノウハウは人であること。 柏市：支援サービスの従来の課題が具体的に把握できた。 多賀城市：協議体制の立ち上げに地域の「お宝」探しが重要ポイント。
36	高崎の事例では意識を統一していく、団体から個々への自主的な住民の声を呼びかけること。 柏市の事例では都市型としての体制整備としてとても参考になりました。協議体は変化があること。
37	セミナー事例についての高崎市の取組が、とても参考になりました。地域の中心人物の方のメンバー選びや、生き生きと会議や交流会が開催され、住人の方々が地域について真剣に考えていらっしゃるの素晴らしいと思った。
38	多賀城市の地域ネットワーク会議を第3層と位置づけて進めている点。 高崎市第2層を発足に当たり、1、意識統一2、目指す地域像を議論して進めたこと。
39	どこの自治体も取組を始めて、悩み始めたところだと思うので様々な事例が聞けて良かった。
40	事例が聞いた事がよかったです。実際の活動がよく分かりました。
41	事例について、行政側の話ではなく、専門員の話が聞けて良かったです。
42	事例紹介の従前の事例発表は人口規模の小さい自治体の例が多かったが、今回都市部を取り上げていただき、参考になった。

2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。

→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。

43	事例発表が参考になりました。
44	事例発表が分かりやすかった。
45	事例報告。
46	事例報告で具体的な流れの理解が深まった。
47	実際にポイント、活動を行う中での課題の発表があり、今後の参考になった。
48	実際に協議体を立ち上げる事業をしているので、問題点がわかった。
49	実際の3つの地域の取組がよく分かりました。どの様なところで悩み、考え年単位で進んでいってる背景がわかりました。住民の方々を動かすのはとても大変なことだと思います。
50	実際の内容を聞いたこと。
51	実践した結果のポイントが聞いた。
52	生活支援コーディネーターの方の実践発表が大変参考になりました。
53	先行事例の紹介が参考になりました。
54	先進自治体の取組は大変参考になりました。少しずつですが、イメージが湧きました。
55	先進的な事例を聞いたこと。
56	他県の事例。
57	他市町村の事例発表は参考になった。それぞれの特色を生かして取組んでいく必要性を感じた。
58	多様な中実の活動が聞いて参考になった。
59	地域ごとの取組が色々聞いて良かったです。
60	地域それぞれの取組を聞き、各地域が試行錯誤しながら、様々な問題の解決につなげていることを理解しました。
<b>【辻先生の基調講演】</b>	
61	辻先生のプログラム。 コミュニティの活性化がフレイル予防の土台中の土台となること、地域包括ケアの考え方が参考になりました。
62	辻先生の講演：生活支援体制整備（協議体・コーディネーター）だけに、フォーカスせず、地域包括ケア全体を総括的に、しかも第2層が重要という視点を教えていただいたこと。 リレートーク：三者三様の発表者の選定がコーディネーター実践者としては大変参考になりました。
63	辻先生の「老いても自分で考える」は自立を促すとわかっていた事でしたが、改めて言葉にしてもらったことで、目から鱗に感じました。政令市の行政区のため、全て共有することはできませんでしたが、住民へのアプローチは変わらないと思いました。
64	辻先生のお話、各コーディネーターのお話、ともに参考になりました。北本先生が各コーディネーターに質問して下さったことでより深く知る事ができました。

## 2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。

→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。

65	辻先生のお話の自助は自らの気づきから始まったので市民によるフレイルチェックによる動機付けが重要という点が非常に参考になりました。教室を立ち上げるだけではだめなのだとよく分かりました。
66	辻先生の基本的な考え方をベースに実践事例の発表だった点が良いと思います。
67	辻先生の研究者の立場から、事例報告は現場からとても説得力がある内容でした。
68	辻先生の講演はとても分かりやすく、私たちが今どの状況にいるのか、理解することができました。また、これからすぐに準備すること、取組むことなど気づきをいただけるものでした。各協議体の活動発表おもしろかったです。住民をいかにまきこむことができるかが大切ですね。私自身、自分の居住地で生活者として参加するかというそれは出来ない様に思っています。
69	辻先生の講演は自分自身の整理ができ良かった。分かりやすく参考となった。各リレートークでは私たちの町の活動方法を振り返る事ができ良かった。
70	辻先生の総論と事例報告（具体例）の組み合わせの内容が分かりやすかった。
71	辻先生の内容に地域包括ケアシステムの役割が再認識できた。
72	辻先生の話は、包括ケアの本質部分であり、聞き取りづらかったが、「本気」になることの重要性、中間支援組織の重要性を改めて理解した。それぞれの発表者は、なんとなく具体的なキモの部分が見えづらかった。
73	フレイルチェックは皆できて、健康状態の確認ができて良いと思い、とり入れたいと思った。生活支援コーディネーターの活動の様子を知ることが出来て良かった。
74	フレイルという言葉始めて聞きました。社会参加と認知症が実際に関係がある点は、自分の地域での居場所づくりのツールになると思いました。
75	どなたも現場にでて地域住民関係者との交流をされていること。そこらご自身への気づきや、地域での新しい発見「宝」があるというのは、地域で活動している私としては大変勉強になりました。（共感できました。）
76	基調講演、柏市の事例、B型サービスもできていて良いと思った。
77	基調講演がとても参考になりました。
78	基調講演での医療介護連携で在宅医療、多職種連携体制の構築の重要性を認識できた。
79	協議体がまだない市町村であるが、今後もネットワーク会議をつづけることで地域づくりを行っていき、今後の活動につなげていきたい。
80	具体的な事例、生の声を聴くことができた。基調講演も説得力があった。
81	初めて参加させていただきましたので、基調講演で事業全体の概要や現状を知る事ができました。また、事例報告により、具体的な活動や生活支援コーディネーターの役割や活動内容を理解することができました。ありがとうございました。
<b>【協議体】</b>	
82	1層はできているが2層をどう展開していくのかいい参考になった。
83	2層協議体の役割としかけ方。ただし地域の色に合わせた取組が重要なので同じようには進めにくいかと思います。
84	2層協議体の立ち上げ方について、それぞれ地域によって方法も様々だったので参考になりました。
85	どのように2層をたちあげたか、それぞれの具体例が分かりやすく特徴もあり参考になりました。

2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。 →「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。	
86	各協議体の構成や進め方が大変参考になりました。
87	協議体のたち上げ。
88	協議体のつくり方、メンバーの集め方、長く続けていくための運営の仕方など参考にしていきたいと思います。
89	協議体のつくり方や住民との関わり方。
90	協議体の立ち上げに悩んでいたのが高崎市が参考になりました。
91	現在2層の設置を目指しているが、進め方は3事例の話から、ほぼ同じ方向で動いていることが分かって安心した。
92	現在社会資源発掘している段階で、今後は協議体を考えていかななくてはなりません。声かけをし集まってもらうのは大変であると思っていて、会議や協議体の意味をしっかりと考えてもらわないといけないと思った。
93	在宅生活の重要性。 生活支援体制（特に第2層協議体）の構築の手法。
94	市が現在2層をどうするかを推計をしているため、事例は参考になった。
95	私の所属している自治体では、第1層と第2層の連携がまだうまく機能していないため、とても参考になりました。
【リレートーク】	
96	生活支援コーディネーター発表後に北本先生からのリレートーク質問で気づく事が大変多かった。
97	リレートークが参考になった。地域サロンなどに関わらず、地域のお宝があるか・・・地域ごとに歩いてみたい。また住民にさらに声かけしていくことで原動力にしていきたい。 ただ聞いているだけより、1日の研修でグループワーク的なものがあると実践的でよかったのに・・・と思う。
98	リレートーク 3地域それぞれで特色があり我が町で学ぶことが多かった。
99	リレートーク 自治体ごとの取組の違い。
100	リレートークで、3つの自治体の異なる実施内容を聞くことができた。
101	リレートークでの事例紹介が参考になった。
102	リレートークで各地域の代表的なやり方が分かってよかった。
103	リレートークで実務をきけてよかった。
104	リレートークで他自治体の良い点や課題を含めた事例が大変参考になりました。
105	リレートークの具体事例。
106	リレートークの部分⇒各事例とも2層協議体の部分に触れてくれたので、参考になった。特に柏市社協の事例が参考になった。協議体設置に向けて、地域に対して行っている説明、（見せ方）の部分がうまい！と感じた。パンフ作成など、実践事例をストックして形としてまとめておくことで、他地区に説明するときには有効な手立てとなることが分かり、取り入れたいと思った。
【地域包括ケア】	
107	地域包括ケアに対する国の考え方の方向性や流れが理解できた。

## 2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。

→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。

108	地域包括ケアの考え方、具体的事例が聞けて良かった。
109	地域包括ケアはエリアごとに率先して行動される方がポイントである事、また工夫が必要なこと。
110	地域包括ケアは日常生活圏でシステム化することで地域全体の在宅生活につながれると感じた。一方で小規模多機能施設（当圏域での）の足りなさをこれからどうするべきか課題も感じた。高崎市等取組が具体的で分かりやすかったが時間が少ない。
111	地域包括システムの運用のポイントがよく分かった。
【その他】	
112	地域包括ケアシステムの展望で、生活支援システムの開発がどの様に進めていくか、少しではあるが参考になりました。 民生委員が担当地域でサロンを月1回開催しているが、いつも内容が決まらず困っています。
113	行政がどのようにサポートしているのか少し見えてきて、今度の活動に生かせそうだと思います。
114	行政と生活支援コーディネーターの関係やそれぞれの市の手法が色々だったこと。
115	行政主体となつての仕組み福利の必要性を改めて感じました。
116	時間をもう少し長く。
117	生活支援コーディネーターが直接地域の場で活動しているので興味深くお聞きしました。包括職員としての業務もあり兼務の難しさもあればお聞きしたかったです。
118	生活支援コーディネーターとしての活動報告の中で社会資源をまわっている。地域へ出向く事を大切にしているとうかがい、自分の活動に参考になった。また、協議体として繰り返し話し合うことが大切と参考になった。
119	生活支援コーディネーターや協議体の立ち上げや位置づけが様々でとてもおもしろかった。今後協議体をどう進めていくかの参考になった。
120	生活支援コーディネーターを配置はしたけれど、充分機能できていないので、もう一度見直してみたい。
121	コーディネーターの視点があるという点が良かった。
122	介護予防との関連性。
123	どのような課題があるのかが分かり、この先の方向性がみえました。
124	生活支援コーディネーターとして今後の活動の参考になった。
125	生活支援コーディネーターの活動の方向性の確認ができた。
126	看護系大学の教員の立場で大学の貢献可能性と看護の貢献可能性を考えるよい機会になりました。ありがとうございました。
127	コーディネーターの地域の状況による取組状況。
128	この事業の戦略性や、地域の人たちの理解については、どこも同じであると感じた。一方で、手法が様々であり、本市の実情合った取組は何か？ 悩みも深くなりました。

## 2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。

→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。

129	さいたま市クラスになると、区で行政のリーダーが異なっている。高崎や柏クラスの大きさはかえって動きやすく、住民も結びつきがあり、まとめやすいし、統一的な意識が作りやすい。これはとても大切で、今後は市の規模も適当なところが、財政的にも支援がしやすいことにつながります。さいたま市でも活動は困難なのがとても考えさせられる内容でした。
130	スライドで見せていただいたり、予算の事であったり大変参考になりました。
131	広い視野からの講演のあと、様々な立場からの事例を聞くことができた点。
132	考えのまとめ方がとてもシンプルでわかりやすかったです。コーディネーターや地域の方にどのようにこの手法をPRしたり、しかけていくかが分かり参考になりました。大変助かりました。
133	講演、リレートーク共にとても参考になりました。
134	昨年に続いて今年参加してより地域の活動を引っ張っている動きがお話の中から感じられました。自分の住む地域を見た時、個の活動がバラバラなのに改めて気づかされましたが、取りまとめをする力が今の所ないなあと、気持ちが悪くなりました。住民の中にこの活動の必要性を気づかせていくことからかと思いました。自治体の動きは大変にぶいと感じる現在です。
135	市の規模のあり方や例は分かりましたが、人口が少ない町なので、町の例も聞いてみたかったです。
136	市役所職員であるが、管理職より、自分達の係3人がコーディネーターをやるように指示があったが、組織、体制自体が間違っていることが分かった。人口6万6千人 高齢化率28.8% 直営包括1ヶ所。
137	私は今年度の異動で初めて福祉に携わる者になった者です。コーディネーターに関わる業務にも携わらせてもらっているのですが、制度に関する理解がロクに深まらないまま本日まで来てしまいました。本日は辻先生のお話で制度のイメージがくっきり浮かび上がり、あまりしぼりや定義づけのないこの事業にあって、「これはこうだ！」と断言しながらの説明でしたので、素人の私にもストンと落ちました。その後のリレートークも大変ためになりました。職員として少し前進出来たように思います。
138	自治体によって違い自分の自治体で、どうなのかと思うと、全くそこまで至っていないのが現状。
139	自分の考えや進め方の再確認となった。
140	自由度が高いからこそ大変ではある。大変ではあるからこそ達成感がある。前向きに楽しんでいく姿勢をみないたい。
141	社会参加の重要性を確認するとともに地域づくり（支え合いや助け合いによる生活支援体制の確立）の意義が明確になった。住民による助け合い活動自体が地域で自分らしく生活しつづけることにつながる構図は、よいモチベーションにつながると思った。
142	小規模多機能サービスは理想的には理想的なのですが、実際には「まるめ」「費用が高い」などで利用しづらい、初期はそれほどサービス利用しないときも費用がかかる。状態がすすんで必要になってもその段階でケアマネ、サービス全てを小規模多機能に移行するのはなじんだ関係を絶つことになるので希望しない利用者、家族が多いと思う。地域に「しかけていく」という事。動き回る人がいないと何も生まれないと感じました。ありがとうございました。
143	世代型の居場所は作りたいことです。まずは「村民フォーラム」を開催してニーズと担い手の掘りおこしたいと思います。
144	生活支援体制整備事業の内容が理解できた。行政、包括支援センター、社協の連携で行われている大学としてどのような援助ができるのか、考えるキッカケ（材料）を頂けたような気がしました。
145	全て、但し事前知識が不足していると認識させられた。

2. 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。

→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムのどのような点が参考になりましたか。

146	全てに渡って「何をしたか」が具体的であり、「何故そうしたか」というご担当者の強い思いがセットになっていたため、踏み込んだ理解ができたと思います。
147	体制整備の仕方は様々。既存の組織との繋がり方。
148	大変参考になりました。離島という特殊な条件であるため、人口規模やエリアなど小さいなかでどの様に地域包括、地域の人々を結びつけていくか参考にしたい。
149	地域にまぜてもらおうという感覚。
150	地域ネットワーク会議の開催は情報交換と課題が分かり良いと思いました。地元の包括センターの生活支援コーディネーターさんに地域の問題を何でも相談し、力になっていただいています。地域の為に協力していきたいと考えます。
151	地域の活性化（地区社協・地域包括センター）と事業者との連携を図り、地域住民のネットワークの強化生活支援を行政と連携し進める。 コンサル機能の活用。
152	地域の方とのつながり、ネットワーク作りに悩んでいるところなので、どうアプローチをかけるべきかなど今回のセミナーのお話で少し解決方法の糸口がみえた気がしました。
153	地域を運行しているバスに、地域の代表の方と乗ってみるなど現在、実施しようと思っています。ただ、コーディネーターだけの考えでしたので・・・もう少し検討が必要なのかもしれません。
154	地域支援の成り立ちの様々な事例を聞く事ができました。柔軟な発想と積極的な取組が成果につながっている事がわかりました。
155	地域資源の発掘。
156	地域住民への周知の1つとして、フェスタを開催すること、ヒントをいただきました。
157	超高齢化時代は、もう目前にせまっております、社会システムの変革は必須であることを再認識した。現代の情報化時代にあるから、不要な情報ばかりあふれているが、あらゆるメディアを駆使した国民全員がこういう認識を統一してベクトルを合わせて対応する必要があると思います。今日のような事例をメディアで広く流していく事が必要では。
158	長寿社会になり、筋力の維持が大切であり、それとともに社会参加も重要であることがわかった。医介連携とよく言われるが、個人の意識向上と人間同士のつながりについて啓発が求められる。
159	直営包括で協議会の事務局でもあるが、生活支援コーディネーター、協議会の進め方に悩んでいたのととても参考になった。

**3-(1) 総合事業に関わっている方にお聞きします。**  
**総合事業を実施するに当たって困難と感ずることがありますか？**  
**→各項目が困難な理由を具体的に記載して下さい。**

**【B型サービス・D型サービスの拡大】**

1	B型サービスの拡大、D型サービスの拡大について実現可能と思えない。
2	それぞれの地域ごとにこれまでのまちづくりの経緯や特性が異なっており、「協議体の設置」「地域での考え方」に困難さを感じている、「B型サービスの拡大」「D型サービスの拡大」については、事業を実施していく上で問題が起こった場合、(事故や苦情など)の責任の所在をどうするのか、など課題が多い。「予算の条件額の管理」についても制度が複雑であり、難しく感じている。
3	B型サービスの拡大の補助要件が定まらない。
4	サービスBの条件をどのように決定するかで、補助対象者が変わってしまう。ケアマネジメントに住民サービスを位置づけることの難しさも痛感している。
5	住民主体といいながら制限がある。(条件が難しい) D型については陸運局との調整が難しい。
6	協議体なくしてB型参入させる場合、市民がすでに制度を理解し、よい意識をもっている必要がある→メリットの提示が困難。
7	自主的に運営しているB型サービスの創設。

**【人材の不足・育成】**

8	生活支援サポーター(人材)の発掘・育成など。
9	人材を探し出す方策が見出せない。人材不足もある。 身近から困り事等を自主解決する意欲のある人が少ない。上からの指示が無いと動けない。
10	担ってくれる人材が見つからない(把握が不十分) 対象となる人が把握しきれていない。 2層の動きが不十分。
11	包括の人員不足 現行相当の増に伴う 減額 AD型-サービスの事業者なし
12	人材発掘の目途が立たないため。
13	担い手が見つからない。
14	人材と財政でしょうか。
15	住民主体の活動への展開が難しいため、人材(担当職員)不足で、他業務との兼務となっているため、生活支援体制整備等にアてる時間が足りない。
16	上記の通り、マンパワーが少なく、協議体の設置が難しい。また、医師不足でもあり、医療(在宅)が難しい。
17	協議体の設置：人選。 B型サービスの拡大：市への依存が強い方が多。(わがことのように感じていない方が多い) 他の仕事が忙しい。住民の方の声をきく時間や「つなぐ」時間や探す、調べる時間や人員の不足。

**【第1層協議体・第2層協議体】**

18	H30.4より、1層コーディネーターを社協に、2層を包括支援センターに委託予定だが、現業の業務の住み分け、既存の協議体の区別が課題となっている。
----	--

**3-(1) 総合事業に関わっている方にお聞きします。**  
**総合事業を実施するに当たって困難と感ずることがありますか？**  
**→各項目が困難な理由を具体的に記載して下さい。**

19	通所Bに関しては介護予防等に取り組んでいるが、訪問Bについて委託している団体のサービス提供が伸びない、もっと周知が必要。 2層協議体の設置に向けた取り組み。
20	現在第1層の生活支援コーディネーターが第2層を兼ねるかたちとしているが、今後どのようにするか考えている。
21	全てこれからです。第2層コーディネーターは昨年、第1層コーディネーターは今年決定し、協議体の設置等これからです。第2層コーディネーターとして資源把握を頑張っているところです。
22	既存の協議体とのバランス取り調整が生じている。 様々な委員会や協議体への参加者が重複した人物となっている。 地域ケア会議、生活支援コーディネーターの会議等、包括の職員が会議ばかりに出席することになり、一番大切な現場で高齢者に向き合う時間を失っている。
23	協議体の設置⇒既存協議体との関係性。 介護予防ケアマネジメントの強化⇒自立支援の視点。
24	生活支援コーディネーターの任命：第2層の生活支援コーディネーター養成研修修了者をどう活用するのか、具体的な方向が示されていない。 地域での考え方の共有：行政職員への教育が不足している。
25	協議体の設置に向けて、メンバー選出が何を目的にするかで変わってくる。地域によって、特徴があるので、それを見極めたい。
<b>【地域の理解】</b>	
26	地域の実情にあったサービスを考えることが難しい。
27	地域の方の理解を得ることが困難。
28	事業が認知されていない事が難しいと考える。
29	総合事業とは何か。その重要性を住民はもとより専門職である包括支援センター各CMが理解していない。
30	サービスへの理解や、地域資源の確保、把握が難しい。 従来の行政主体の考えを根本から変えた住民主体の考え方を普及、理解されるにはかなりの時間を有すると考えられる。
31	地域の理解。 所属する市町村が大きいため、地域により大きな差がでる。
32	本来、理解しているべき組織や職種自体が、全く理解できていない。 行政の縦割の考えにより、いろいろな問題がある。 本来のNPOがない。 行政の担当職員による個人的感情で地域を選び、活発な地域や団体と生活支援コーディネーターの関わりを好ましく思わず当たりが強くなる。(関わりを知ると・・・)
33	地域での住民の方の理解が難しい。
34	自主的な集まりへの理解がなかなか浸透しない。
<b>【ニーズ】</b>	
35	サービス利用のニーズがないと思います。
36	ニーズの掘り起こしから、協議の仕組みがきちんと決まっていない。行政との連携がしづらい。

**3-(1) 総合事業に関わっている方にお聞きします。**  
**総合事業を実施するに当たって困難と感ずることがありますか？**  
**→各項目が困難な理由を具体的に記載して下さい。**

37	利用者ニーズの把握。 事業者採算性。 自治体として発生する事務量が大幅多くなる。(特に、みなしの有効期限終了後の指定or更新の業務)
38	住民のニーズ把握。 事業の必要性を理解してもらうこと。 市は動いてくれるのか?わからない。
39	地域の差と資源・課題・ニーズのマッチングが上手に行えていないように思う。
<b>【設置の進め方】</b>	
40	H29.4からスタートしたばかりで、試行錯誤しながら制度を学んでいるところです。
41	まだ始まったばかりであり理解できていない。地域によりルールが細かく違う。
42	今年4月から動き始めて、まだまだ手探りなので。
43	始まったばかりで、地域はもちろん行政、社協の周知ができていないのか疑問がある。行政でもひとつの課が担っているように思われがちだが、市全体で動いていくべき。市町議員も動くべきだと思う。大きなプロジェクトとして考えて欲しい。
44	誰にお願いすればいいのかわかりません。また、協議体をどの様に進めると意識統一がはかれるのか、資源把握からサービスの創出にどうつなげたいか、わからないことが多いです。
45	設置のプロセスがどの様にしたいのか。
46	いかようにも進められるからこそよりよい手法を考えていかなければと思います。
47	地区担当で割り振られて、パイプラインもないまま、何をしたいのかという状況です。
<b>【その他】</b>	
48	「介護保険料を払っている以上、介護保険のサービスは使わなければ、損、使う権利がある」という考え方に対して実効性がある方法を見出すことに困難さを感じています。
49	地域における包括の認知度が低いので、互助の環境がととのっていない。
50	生活支援体制が必要であるという意味や意義を住民の皆さんに共有してもらうこと。予算は本当にありません。
51	日常業務に追われ、じっくり取り組むことができず悩んでいます。時間が足りない。
52	総合事業について、1層コーディネーターとして区との協議を続けているが、区の事業に対する方針が定まらず、振り回されている。2層のコーディネーターの配置についてもまだ見通しが定まっていない。
53	関係機関との連携と関係づくり。
54	社協との関係性が希薄な傾向があるため、共に歩むことができない。
55	住民主体で要支援以上の方の支援をすることは、実例としてありますが、その活動に対象者の住み分けをして、補助金を出すというのは、困難があると思います。
56	地域性を活かし限られた予算でどのように取り組むのがよいのか分からない。背景には市のビジョンが職員間が共通認識がないからだと個人的には思っている。

**3-(1) 総合事業に関わっている方にお聞きします。**  
**総合事業を実施するに当たって困難と覚えることがありますか？**  
**→各項目が困難な理由を具体的に記載して下さい。**

57	役人はいかに自分が担当にならないかと最初に考えるから。 メニュー作りよりまずはマネジメントだと思います。
58	まずはマスコミの「誤」報道のためか、要支1.2の介護保険からの切り捨てあるいはサービスを受けられなくなるとする、誤解した人々が多いこと。そのため、互助、自助の「すすめ」が行政のやることの押しつけとしてとられて、コーディネーター、あるいは包括が動きにくくなっていることに結びついている。 包括に委託しているが、一線にででの啓蒙活動に消極的です。
59	キーパーソンとなる方は既に精力的に活動している方がほとんどである。複数の活動を兼務しているところにコーディネーターの様な新たな役割を担ってもらうことは難しい。また、話し合いの場としての協議体も、地域で活動する様々な会議体があり、そこに新たに持ち込んでいくのは負担感が大きく、丁寧な住民説明も要する。
60	サービス事業者が少ないままで行っていた。サービス事業者もやめてしまう傾向があり実態と収入の差が大きく事業者が維持できない。総合事業もあり、要支援との違いと利用者が認識しづらい総合事業の請求と国保連の請求と区別しづらい。例えば要支1でもヘルパーのみであると総合事業の市町村の給付、福祉用具を利用すると国保連となり、利用しているサービス内容でケアプラン請求が違ってしまう。
61	サービス事業者が増えても利用の拡大につながらないため。
62	それぞれの地域での特徴があるので、意思統一していくことが必要だけど、きちんと伝えることが難しいと感じています。
63	その他多くの事業を担当しているため（その他5つ以上）腰をすえて取組めずとても残念に思う。委託をしている社協さんと協力して行っているため、より良い方法を模索して行かなければと思う。
64	まだ行政独自のものに係わっておらず、現行に促していることが多いから。
65	みなしの段階で話が進まず危機感を感じる。
66	メンバーの設定、進め方。未来に向けて、グループをたくさん作ることも難しく、どう存続していくかモチベーションをたもちつつ。
67	既にあり活動している町会や老人会の方々との兼ね合いもあり、介入するまでに時間がかかると思いましたが、今回の発表を参考にさせていただきたいと思います。
68	既存のNPO法人などの活動が活発な地域や、ボランティア、区長会などの取組が活発な地域においては、制度理解、協議体の発足等進めていけるが、地域の繋がりが希薄している地域では全て一からであり、困難さを感じる。
69	行政が現場に丸投げでビジョンを示さないため。
70	行政の取り組む姿勢。総合事業と生活支援コーディネーターは別の係が所管しており、包括ケアも別。そこがうまくすりあわないので、未来が統一されていない。
71	行政任せな住民が多いため、自分事としての意見やアイデアが出てこない。行政がどんなに訴えても「お金がなきゃ何も出来ない」とか、「理想はあるが、中心的な担い手にはなりたくない」など、住民の意識や必要性を低くとらえている方が、どの地域にも多い。
72	市が今のところ実施しないと言っているため（対外的には検討中としています。）⇒市の担当者は頑張っていますが・・・前の上司が・・・市の上司が変わったのでこれからに期待します。 住民ベースで声をあげるような形でないと無理かもしれません。
73	事業所等、社会資源が少ないので行うのが厳しい。

3-(1) 総合事業に関わっている方にお聞きします。  
 総合事業を実施するに当たって困難と感ずることがありますか？  
 →各項目が困難な理由を具体的に記載して下さい。

74	社会資源調査を行っても回収できない。(返事いただけない理由として、総合事業の必要性の理解が難しいのではないかと)
75	住民が総合事業の必要性、総合事業とはを理解する必要があると思われませんが、その周知が難しいと考えます。核家族が増え、他の家庭や近所との交流も少ない現在で「昔のような互助協助」を求めるのは国の政策、子供の教育からもっと強化をしなければ難しいと思います。
76	住民への周知には伝え方もそうですが、繰り返しの説明、理解が必要だと感じました。
77	所属・背景・立場など属性が異なる人間が同じ方向を向いていくことの困難さ。
78	小さな町のために社会資源が少なく、新たな担い手を育成してもなかなか自立に向けた動きが出来ない。
79	新しい事業で、自分の自治体にどうおとし込めば良いか分からない。難しい。
80	全体としての体制がとれていない。
81	地域への出向き方。 多賀城市の話はとても参考になりました。
82	地域包括ケアについて、執行部の理解が足りないと感じている。事務事業の推進には工夫が必要だが、それなりのマンパワー、組織体制の整備が必要と思われる。それができていない。小さい市町村はもっと苦労されているのでは？
83	地域包括支援センターの圏域で2層の設置を進めようと考えている地域包括支援センターの職員をコーディネートと位置付け進めたいが業務の負担が大きいのか、積極的な気持ちを持ってもらえない。1層が何かをやってくれと考えている職員も多い。
84	地区社協の積極的な活動がみえず、包括だけで動いていっても良いものかと思う。
85	庁内体制・自分の部署だけでは取組めない。介護予防のやることでしょと言われる。地域づくり、多様な人に関わる部署との連携必要。
86	町づくりに力を入れたいのに、単純な事務仕事が増えてしまった。
87	町会、老人会、民生委員、地域包括それぞれの地域割りがバラバラで昔からの地縁と新しい地域との住民の帰属意識に差がある地域にでていくとっかかりも難しい。協議体やサービスの拡大等については全くとりかかる予定もないので困難を感じる以前の状態。
88	同じ組織内でも様々な考え方がある。これが地域の人達と共通の思いをもって地域包括ケアの実現にあたるというのはかなり難しい。
89	保険者が一部事務組合なのに対し、総合事業は市町村となっているため。
90	本取組を地域に根づけることに困難を感じた。
91	予防ケアマネジメントについて、サービスありきになってしまうケアマネジメントが多い。
92	例えば、管内自治体の情報交換会を開催しても、人口規模や社会資源財政力の差が激しいので、都市部の事例や手法は小規模自治体では参考にできないと言われてしまいます。とはいえ、自治体数が多いので、ブロック会議のように回数を増やすのも、運営側の事務的な負担が大きく限界があります。

3-(3)総合事業に関わっている方にお聞きします。  
協議体の役割をどう考えますか。→理由を具体的に記載して下さい。

1	住民主体の協議体の体制作りに時間がかかる。長い時間をかけて協議体の展開をしていく必要がある。
2	制度としてどちらも必要です。
3	市の課題を抽出し、解決する場でもあり、生活支援コーディネーターの活動を補完する場でもあるから。
4	住民主体の話し合いの場こそが、当事者意識の醸成のためには欠かせないため、専門職だけが動いても地域はまわらない。かといって住民だけでは新たな制度など難しい面もあるので、やはりコーディネーターも重要！
5	住民が直接関わる場がより重要と考えるため。
6	重要だと思いますが、既存の様々な会議がある中での住み分けも複雑ですし、会議を運営するだけで疲弊しているという保険者の声も聞きます。やり方次第とは思いますが、制度が変わるたびに同じような協議体が乱立しすぎと感じます。
7	重要だと思うが、やらされている感で参加する者が多いように思う。
8	重要性を比較する意味が分からない。
9	体制整備事業を推進する上で、非常に有効なツールとなるため。
10	「共に進めていく」という意味あいと同様に重要。
11	一緒になって考え、情報共有し、地域課題等に取り組んでいくことが重要に思います。
12	地域包括ケアシステムを全体的に考えていく上で、適切な協議体ならば重要。 ※実際、協議体は充て職なので、正直全く意味がないものとなっているので、自分の所にあてはめると、必要ない。
13	両方が地域を統一していくことが大切だから。
14	1・2・3層ごとに重要度は違うと思う。第2層が一番重要だと思う。
15	2層の協議体の活動が重要であり、協議体にはコーディネーターの参加が必要。課題によってメンバーを変える必要がある。
16	現段階では第1層第2層協議体の必要性をはっきり認識できない。（各地域で独自の取組が進んでいるため）
17	特に第2層の重要性を感じる。
18	生活支援を進めていくにあたって、重要なのは、市民が主体的にサービスの創造のための地域の把握やニーズの洗いだしを行っていくことであり、その場が協議体であると考え。協議体は1層2層に関わらず多数あることが理想であり、そこで出た意見等を集約させるのがコーディネーターであると考え。そのため協議体ありきのコーディネーターであると考えため。
19	生活支援コーディネーターがいくら良い施策やプランを立てても、住民や担い手が我が事として考える事がないと、体制整備は進まない。
20	生活支援コーディネーターの活動について、困った時等アドバイスをもらいたい。
21	生活支援コーディネーターは、協議体があつてはじめて資源調査と開発につなげられると思うから。

3-(3)総合事業に関わっている方にお聞きします。  
協議体の役割をどう考えますか。→理由を具体的に記載して下さい。

22	生活支援コーディネーター1人では地域づくりはできない。協議体のメンバーと連携、協力することでより充実した地域づくりが展開されると思っている。
23	コーディネーターが先行して動きましたが、協議体も同時に並行して動くことの大切さを感じています。
24	コーディネーターだけでは進められない一方、コーディネーターがいないと協議体を活動させることも出来ないの、一体となって実施されて協議体の力が発揮できる
25	コーディネーターという単体の視点だけでなく、それまでも地域に係わっていてメンバーからの意見を取り入れることによって、より地域づくりが広がると考えるから。住民主体でやってもらうため。ネットワーク作りが重要であるから。
26	コーディネーターのみでこの事業を全て行うというのは不可能であり、様々な立場の協議体メンバーの力を合わせて実施していく必要があると考える。
27	コーディネーターは所詮1人のため、実際に動くためには協議体が必須と思われれます。どうしても個人で動くため、自身の専門性、特色や方法に偏ることが多いので、そうした意味でも、包括的に活動するために協議体へ働きかけて動くことが必要だと感じています。
28	サービスを作るにあたり声を出してくれる大元、生活支援コーディネーター主導では互助のサービスは成り立たない。
29	チームとして動きやすい環境づくりのために、コーディネーターを孤立させないために、目的を明確にした話し合いの場は不可欠と考えます。
30	つなぎ役として生活支援コーディネーターの役割は必要となるが、協議体は意見を集め、展開していく。協議体の人選については状況によって変化していくのでは。
31	生活支援コーディネーターは1人ではできない。バックアップする存在が重要なため。
32	両輪ですすめていくべき。
33	事を進めるにあたって車の両輪と考えています。
34	担うべき活動が異なる。「車の両輪」である。
35	協議体メンバーそれぞれの力や情報をまとめるコーディネーターは両輪だと考えます。
36	協議体だけでもコーディネーターだけでも成り立たない。横のつながりがあって初めて成り立つ。
37	どちらが欠けても生活支援体制整備は行えないと思う。
38	H27の介護保険改正で、必要とされる多くの協議体については、これだけの協議体が発効性を発揮するのか疑問がある。多くの自治体が形式的なおいていると思える。
39	巻き込まなければ話が進まないため。
40	既存の会議との差異がわかりにくい。
41	今年度はこのあと協議体を行っていく予定。そこで協議体の重要性について理解ができると思う。ただメンバーをみると重役が多く、動きのあるような形ではなく、もし今後開発部会を立ち上げるとすれば、そちらの方が重要になるだろうと感じる。

3-(3)総合事業に関わっている方にお聞きします。  
協議体の役割をどう考えますか。→理由を具体的に記載して下さい。

42	行政・社協・自治会等、地域支援をどのようにとらえ、どのように進めて行くのか、示す場が協議体と考える。しかし行政、社協、態度や考えを明確にせず、「コーディネーターの好きにやればいいじゃないか」と述べる。信じられない。
43	最終的には、協議体のメンバーの支え合いが重要だと感じたから。
44	実際に主体的に動くのは協議体メンバーであるから。
45	私の地域は島であり、特色があり、協議体等を作っていくことは非常に難しいと思っています。NPO等の団体もほぼなく・・・。
46	実際に地域で生活支援体制を作っていく主体者だから。
47	実際に地域をつくる上での協議体と考えているので、協議体がしっかりしていないとつながっていないと思っている為。
48	地域に根ざした活動も政策的に振り返る場も大切。
49	地域のことを一番よく知っているのは住民だから。
50	地域を良くするには、地域住民の力が必須な為。
51	地域の課題をどのように取り上げ取組んでいくのかの方向性を明確化することも、協議体の役割の一つであり、それをもとにコーディネーターの役割もより明確化（地域性を生かし）されると思うから。
52	地域の力を引き出す点において協議体の影響の方が多いと考える。
53	地域の実情にも通じ、意欲的に行動出来る人たちがコーディネーターと共に知見や行動を共にすることで、地域全体の自助、互助が円滑に動くようになると思う。
54	地域福祉を推進させる中心的存在だと思うので。
55	実際の活動に大きな影響があると思う。
56	地域包括ケアシステム構築には土台となる。
57	地道な活動があつてこそその協議体だと考える。
58	勉強不足であり、協議体の役割について理解が出来ていない状況です。
59	方向性の統一、横のつながりの強化のため。
60	本年7月に初めて第2層会議がスタートしている（1層は6月）事業も今年4月からスタートしており、まだ手探り。
61	民生委員として初めて参加しました。今回のセミナーについて勉強させていただくため参加したので、役割については本日においては「重要性が理解できない」にしました。